

# すぎなみ大人“熟”してる？

Jukusiteru? TIMES'15

特別号

平成27年8月29日発行  
発刊元：塾熟出版（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

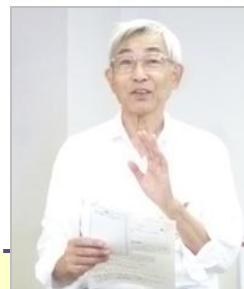
## だがしや楽校deワクワク大作戦 ～ゆるく楽しく地域とつながろう～

公開講座 だがしや白熱楽校～これからの生き方を語り合おう～

だがしや楽校コース  
8月22日  
参加者 16名  
一般参加者 19名



今回はいつもと趣向を変えて、東京大学大学院教授・牧野篤先生を講師にお迎えしての公開講座を開催。社会教育を通して、地域の過疎化や高齢化などの課題に取り組む先生のお話から、どのような学びを得ることができるだろうか？



本日の日直：檜枝さん

### 牧野 篤先生

1960年、愛知県生まれ。1988年、名古屋大学大学院教育学研究科博士課程修了。名古屋大学大学院教授を経て、2008年より東京大学大学院教育学研究科教授。専門は中国近代教育思想、社会教育、生涯学習。著書には『生きることとしての学び』（東京大学出版会）、『農的な生活がおもしろい』（さくら舎）などがある。

### 先生からの問題提起

前半では、データに基づいて日本社会の課題が示された。ポイントを紹介したい。

#### 《少子高齢化・人口減少》

大正・昭和初期から現代、そして将来にかけての年齢ごとの人口の推移を見ると、高度経済成長期にあった1970年代頃からすでに高齢化は始まっていたこと、平成初期を経て、今世紀に入りさらに高齢者人口は増えていることがはっきりと分かった。2060年には高齢化率が41%、それに対し14歳までの子どもの人口は8%になると言われているという。若い世代への介護負担増などが不安視される。

#### 《産業構造の変化》

かつて日本社会の発展を支えたとも言える農林水産業やメーカー。その就業人口は、1950年代に比べてかなり減少している。代わりに増えているのが、金融・保険業やサービス業。だがこれらの業種は、必ずしも多くの人に安定した雇用をもたらすものではなく、結果的に非正規雇用で生活の不安定な若者の増加の一因となっている。

#### 《自治体の再編》

もともと、日本社会は小学校区を単位に町会、青年部、婦人会、さらには神社仏閣もそれに基づいて作られ、コミュニティがはぐくまれていた。だが現在、自治体の再編、小学校の統合によりそのつながりが壊れ始め、人々の孤立化を招いている。都市部への人口集中も、そこから切り離せない課題だ。

高齢化社会。その言葉には、ネガティブなイメージが付きまとう。だが先生は、高齢化社会は、果たして「よくないもの」なのか？と疑問を投げかける。確かに、年金、介護など不安な点は数多い。だが、それだけではない高齢者の状況をめぐる変化も起きている。



## そのような社会で、どう生きる・・・？

先生が続いて示したのは、現代の高齢者に関するポジティブなデータだ。高齢者は今、かつてよりも歩行速度が速くなっており、日常問題解決力・語彙力・コミュニケーション力などは、年を取ってもなお伸びるということが分かっている。現代の高齢者は、昔の高齢者よりも若返っているのだという。平均寿命も延びている中、子育て後や退職後の人生をいかに生きるかが重要なのだ。

先生は、これからの生きる根本を「地元」、つまり基礎自治体におき、そこで納得して生活していくことがこれからの社会のとらえ方として必要ではないか、と指摘された(右記参照)。高齢者も若者も、何らかの役割を持ち、好きなものがある。そんな地元で生活

することができれば、顔の見える隣人と助け合い、孤立することなく生きていけるのではないかと。それは、最初に示した社会の課題に取り組むための一つのヒントだといえる。

## 《牧野流・これからの社会のとらえ方》

Aging in Place から  
(地元で老いる)  
ALL in Place へ  
(地元で全部ある)

Aging in Place, 納得して年を取る  
Living in Place and きちんと生活ができる  
Loving it in Place 好きなものがある

## これからの社会を考える！

先生のお話をふまえて、後半は、グループごとに「どんな未来であって欲しいか」というテーマでディスカッションをおこなった。出された意見を一部紹介したい。

【地域のつながり】顔の見える地域に／学校卒業後、地域にそのまま定着／世代間交流の場を作る／ざっくばらんな近所づきあい／お互いを助け合える

【生活の安定化】どこでも最低限の暮らしができる／介護職の雇用の安定化、社会的地位の向上／健康で働き続けられる／安心して保育ができる

【誰もが生きやすい社会】外国人もゆるやかに溶け込んでいける社会／ジェンダーによる差別がない社会／行政に任せるのではなく、自分たちで仕組みやサービスをつくれる(そのための、いろいろな人が一堂に会する機会がほしい)／個人や地域から発信できる



じつは先生は、そのような未来になるための「地域コミュニティのあり方」、「自分がすべきことは何か」、「自分と仲間の関係のあり方」とは、といった議題も用意して下さっていたのだが、今回はここまででタイムアップ。だが、すでにこれらのテーマにも踏み込んだ意見を出しているグループもあり、受講生の皆さんの意識の高さに、先生も驚き！

雇用の問題や年金制度など、従来の社会システムから見直さなければならぬ課題も数多い。行政も、私たち自身も、地域でよりよく生きていくために何ができるのか、考えを深める貴重な機会となった。

最後に、子どもたちが保護・教育の対象ではなく、大人と一緒に社会を作っていく仲間として、ともに町づくりに取り組む事例をお話くださり、だがしや楽校にも子どもが参加するといいですよ！との大変興味深いアドバイスもいただいた。

12月には、先生の地域での実践例をご紹介していただける予定。乞うご期待！(文:遠藤)



## 受講生の感想 (一部)

子どもたちとの未来を考えようとあらためて思いました／地域にコミュニティを作っていくのは、単なるボランティアではなく、これからの社会の必要な事であると思ひ自分への義務としてなにかをしなくてはとすこしあせりました／自分たちに何ができるか、55万人都市という“地域”があるようでない中で、どういう方法があるのか、学びの機会を得ていきたいと思ひます／たまには大きな目で日本の事を考える機会があるのも良い事です／我々大人塾の活動を少しみなおすきっかけとなった／国家的考え方ではなく地域コミュニティのあり方を今後考える必要がある。地元での仲間作り、絆作りを考える参考になった／国も、個人も、今までと違う発想でくらしをつくっていく必要があると思ひました

# だがしや白熱楽校Ⅱ 開催決定！

12月12日(土)開催のだがしや楽校コースにて、再び牧野先生が登場！お楽しみに！